

平成25年度計画

公立大学法人福岡県立大学
平成25年4月

| | |
|-----------------------|--|
| <p>中期目標 1. 教育</p> | <p>「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部の連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職と協働できる能力を育成する。 人間社会学部については、今後の社会的ニーズに的確に対応するため教育内容の改革に取り組む。 看護学部については、医療の高度化・ニーズの多様化に対応するため、学部及び大学院を通じた教育の充実を図る。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、 大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4) 学生支援の充実</p> |
|-----------------------|--|

| 中 期 計 画 | | 平 成 2 5 年 度 計 画 | | 通し 番号 |
|---|---|--|---|----------|
| 項 目 | 実 施 事 項 | ウエイト | | |
| <p>1 教養教育の充実</p> <p>公立大学法人福岡県立大学の教養教育は、豊かな感性、柔軟な思考力、緻密な論理構成力および自己表現能力の習得をめざす。</p> | <p>1【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①専門科目の基礎と社会人・職業人として身につけるべき教養科目を中心に、カリキュラムや科目内容を検討・改編する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 : 教養科目全てを対象として C以上80%</p> | <p>1【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>○人間社会学部将来構想や看護学部学生のニーズ等をふまえ、強化すべき教養科目のカリキュラムや科目内容を検討する。</p> <p>○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目開設を検討する。</p> <p>○「スキルアップ・ゼミ」コースの改編・改善を検討し、実施する。</p> <p>○達成目標 ・スキルアップゼミ4コースの開設 ・学生の成績 : 教養科目全てを対象として C以上80%</p> | 1 | 1 |
| | <p>2【教養演習・総合科目の改善】 ＜両学部の教養演習、総合科目＞</p> <p>①学生の課題発見・解決能力、論理的思考力及び自己表現能力を高めるために、教養演習等における授業内容と方法を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善 ②語学について、従来の語学教育を見直し、アジアとともに発展する国際交流を推進させるために、アジア諸国の異文化理解と共にコミュニケーション能力を高める。 ・英語・中国語・韓国語教育の充実</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ : 全学の教養演習及び総合科目において C以上 80% ・語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編 : 2科目増設</p> | <p>1【教養演習・総合科目の改善】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実を図る。</p> <p>○学生編集委員会を中心に、平成24年度教養テキストの内容・イラストを改善し、改訂版を作成する。</p> <p>○共通テキストの大幅な見直し案の作成を行う。</p> <p>○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目案と既存科目教育内容の変更について検討する。</p> <p>＜語学教育の充実＞ ○英語教育見直しのひとつとして平成25年度から導入する外部テストを、各学部・学科の一年生対象に年2回実施する。</p> <p>○教養演習英語クラスの平成26年度からの開講を目指し、教育内容と方法を確定して開設案を作成する。</p> <p>○平成24年度計画に基づき購入した、異文化理解のための韓国の伝統衣装や伝統工芸品等を韓国語教育に積極的に活用する。同時に中国語クラスにおける異文化理解教育について検討する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ : 全学の教養演習及び総合科目において C以上 80%</p> | 1 | 2 |

| 中期計画 | | 平成25年度計画 | | 通し 番号 |
|---|--|--|--|----------|
| 項目 | 実施事項 | | ウェイト | |
| <p>2 専門教育の充実 専門教育は、本学の特色を活かし、専門分野だけでなく、相互に他の分野にも対処できる能力を育成する。 人間社会学部では、現行のカリキュラム体制の見直しと再編を図り、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する福祉専門職、心理専門職、地域マネジメントに関する職業人の育成を図っていく。 看護学部では、社会的に実践能力の高い看護職が求められており、「学部における看護実践能力を育成するカリキュラムの充実・強化」が必要である。健康問題に対して広い視野から柔軟に対応し、創造的な解決策を提案できる看護師・保健師・助産師・養護教諭の育成を目指す。なお、助産師養成は平成27年度から大学院修士課程に移行する。 また、専門職としての規範意識の向上と職業倫理の涵養を強化する。 さらに、高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中核を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。</p> | <p>1【カリキュラムと科目内容の検討】 <人間社会学部><看護学部></p> <p>①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う。</p> <p>○達成目標 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において C以上80%</p> | <p>1【カリキュラムと科目内容の検討】 <人間社会学部> ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討</p> <p><公共社会学科> ・二つのコースの専門科目の改善・充実を検討する。</p> <p><社会福祉学科> ・「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実を検討する。</p> <p><人間形成学科> ・三つの「領域」と「履修コース」との関連を見直し、専門科目の改善・実施を検討する。</p> <p><看護学部> ○2年目に向けた新カリキュラムの科目を滞りなく実施する。 ・カリキュラム検証委員会及び教務部会で、2年目の新たな科目と変更科目について担当教員から学習内容・課題の聞き取りを実施する。 ・学生からの意見聴取(前期・後期各1回)を行い、その意見をカリキュラムの授業内容に反映させる。</p> <p>○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図る。 ・平成25年度は実習運営部会と連携し、外部講師の講義を実施する。</p> <p>○達成目標 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において：C以上 80%</p> | 1 | 3 |
| | | <p>2【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部></p> <p>①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討</p> <p>○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%</p> | <p>1【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部></p> <p>○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの実施と内容の検討</p> <p>○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%</p> | 1 |

| 中期計画 | | 平成25年度計画 | | 通し 番号 |
|-------------------|--|--|------|----------|
| 項目 | 実施事項 | | ウェイト | |
| ※2 専門教育の充実の 続き | 3【実践力強化のための実習教育の充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護実践力育成のための実習教育の充実 ②人間社会学部における実習教育の充実 ③実習前後における学習内容の充実 ○達成目標 ・看護学部における臨床実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80% | 1 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回開催 ○実習指導体制の実施を継続する。 ・臨床教授等の称号付与の実施及び検討 ・実習打ち合わせの充実を検討 ○看護基本技術習得支援の実施と項目の検討 ○実習の事前事後指導充実の検討 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・教育実習の事前・事後指導の内容について検討 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・社会福祉養成における事前事後指導において、4名の非常勤等教員に事前指導に加わってもらうよう検討・実施する ・社会福祉士養成における実習報告会の進め方を改正し、指定施設の実習指導者に参加いただくよう検討・実施する ・社会福祉士養成における事前指導において、外部講師による講話の時期について早めるよう検討・実施する ○人間形成学科における実習指導の充実 ・実習の種類(保育所・施設、幼稚園)毎の問題点の検討 ○達成目標 ・看護学部における臨床実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80% | 1 | 5 |
| | 4【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。 ②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。 ③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。 ④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80% | 1 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘して行う「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」4講義の実施 ○「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の実施 ○「海外語学演習」「海外語学実習」の実施 ○社会貢献論演習における成果の社会貢献フォーラムにおける発表 ○公開卒論発表会の開催を検討して実施する。 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80% | 1 | 6 |
| | 5【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ①高度専門職業人の育成を重視したカリキュラム体制にしていいため、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程の見直し検討を行う。 ○達成目標 ・充足率 (入学者数)／(入学定員) :100% | 1 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 地域教育支援専攻 ・カリキュラムの充実に向け、専攻のあり方を協議する。 ・授業科目間の連携に向けた協議を行う。 心理臨床専攻 ・24年度に実施されたニーズ調査の結果(臨床心理実習(学内)における事例検討会に関する運営方法の検討、外部実習時間の充実についての検討)及び資格認定協会の実地視察の結果を踏まえて改善点を検討する。 社会福祉専攻 ・「地域福祉演習」を開講する。 ・「ソーシャルワーク研究」「ソーシャルワーク演習」を実施する。 ○達成目標 ・充足率 社会福祉専攻 :100% 心理臨床専攻 :100% 地域教育支援専攻 :100% | 1 | 7 |
| | 6【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成 ③大学間のがんプロフェッショナル連携の構築 ○達成目標 ・充足率 (入学者数)／(入学定員) :100% | 1 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ○高度な看護専門職教育の充実 ・精神看護専門看護師コース開講 ・26単位 of 精神看護専門看護師コースの学生の募集停止。38単位の精神看護専門看護師コースの申請準備。 ・老年看護専門看護師コースの認定審査申請 ・がん看護専門看護師コースの充実(継続) ・助産学コースの設置申請書作成 ○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成(継続) ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・eラーニングクラウド参加継続 ・eラーニングクラウド開講科目受講(1科目以上/学生1人) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加 ○達成目標 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググループ会議の開催(5回以上) ・充足率(入学者数)/ (入学定員) :100% | 1 | 8 |

| 中期計画 | | 平成25年度計画 | | ウェイト | 通し番号 |
|---|---|---|---|------|------|
| 項目 | 実施事項 | | | | |
| ※2 専門教育の充実の 続き | 7【他大学との連携による教育の充実】 ＜人間社会学部＞ ＜看護学部＞ ・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実＜人間社会学部＞ ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築＜看護学部＞ ①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。 ②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。 ○達成目標 ・他大学との連携プログラムの件数：1件以上／年 ＜人間社会学部＞ ・大学間連携による開講科目数：1科目以上 ＜看護学部＞ ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアム会議 ：対面会議 1回／年 ：テレビ会議 2回以上／年 | 1【他大学との連携による教育の充実】 ＜人間社会学部＞ 公共社会学科、人間形成学科、社会福祉学科の専門領域に応じた他大学との連携の方向性を検討 ＜看護学部＞ ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・NPO化に向けて検討する。 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を開催する。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会の開催 ・ホームページを更新し、ニュースレターを発行する。 ・外部評価委員会による事業評価を実施する。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・キャリア像確立講義を試験的に実施する。 ・ナーシングキャリアカフェを開催する。 ・使命感尺度の開発のための聞き取り調査を実施する。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査を実施する。 ○単位互換を担当する統一コード化部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・連携大学での国際協力看護領域及び災害看護領域における講義の相互受講を試験的に実施する。 ・キャリア像確立講義及び特徴科目における授業の一部をオンデマンド配信できるようコンテンツ化する。 ・新規付加価値コース授業群を検討する。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を試験的に実施する。 ・連携大学で実施している海外研修授業の視察を行う。 ・新規付加価値コースにおける合同短期研修を検討する。 ・大学連携・単位互換に関して、オレゴン看護教員コンソーシアムへの視察を行う。 ○達成目標 ・大学間連携による開講科目数：1科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議：対面会議 2回／年：テレビ会議 2回以上／年 | 1 | 9 | |
| 3 教育効果を検証するシステムの構築 十分な教育と厳格な成績評価を行い、確実な知識と技術を身につけた専門職業人を育成する。その教育効果を検証するための評価システムを構築する | 1【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①学生による授業評価の継続的実施(前期、後期)とその結果に基づくFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。 また学生との座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 ：年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 ：各授業科目の回収率70%以上 | 1【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価の実施(前期、後期) ・授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施する。 ○授業評価の利用に関するFDセミナーの開催 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会を実施する。 ○学生による授業評価をFDにつなげる仕組みについて、主として教務部会と協議しH25年度実施に向け検討する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催：年1回以上 ・学生による授業評価の回収率：各授業科目の回収率70%以上 | 1 | 10 | |
| | 2【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。 ○数値目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上 | 1【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞ ○就職先アンケート内容の検討を行い、アンケートを実施する。 ・就職先アンケートを継続的に実施する。 ・就職先アンケートの結果を分析し、来年度の実施に向けて結果を反映させる(アンケート項目の修正や拡充)。 ・各学科及びキャリアサポートセンター間でキャリア支援に関する情報を共有するとともに、効率的な役割分担を進める。 ・卒業予定者の就職活動状況を把握するアンケートを早期に実施する。その結果に基づきキャリアサポートセンター等と連携して学生への情報提供や個別指導を行う。 ○アウトカム評価システム(案)を策定する。 ＜看護学部＞ ○就職先アンケート等により教育ニーズを把握するとともにきめ細かな国家試験対策を行う。 ・国家試験不合格者に対して、定期的に(6月・11月)連絡をとり、状況を把握し、個々に応じた支援を行う。 ・就職先アンケート調査を実施し、教育ニーズを把握する。 ・ゼミ担当教員と連携し、病院・施設の情報提供や就職相談を実施する。 ・国家試験対策として、定期模試の実施と結果を把握し、強化すべき領域の補講、全体・個別に実施する(保健師領域は補講時間を増加)。 ・成績低迷者向けの強化プログラムを実施する。 ・ゼミ担当教員と連携し、精神面でのサポートを行う。 ○達成目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上 | 1 | 11 | |

| 項目 | 中期計画 | | 平成25年度計画 | | 通し 番号 |
|---|------|--|---|------|----------|
| | | 実施事項 | | ウエイト | |
| 4 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る | 1 | 【教員のFD活動の推進】 <人間社会学部><看護学部> ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施 ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率 :100% ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> :両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システムの構築 :教員間の授業参観を実施 年1回以上 | 【教員のFD活動の推進】 <人間社会学部><看護学部> ○FDセミナー(ワークショップや研修会などを企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ○教員間の授業参観システムのフォーム作成と試行 ○公開授業の方法や効果的な実施に向けた課題の整理及び試行 ○達成目標 ・FD研修会等教員参加率:95% ・学生の成績<人間社会学部><看護学部> :両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システム:人間社会学部での試行 年1回以上 | 1 | 12 |
| | | 2 | 【教員のFD活動の推進】 <人間社会学研究科><看護学研究科> ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催(各専攻1回以上) E学外の講師によるFDセミナーの開催(1回) E学外で開催されるFDセミナーへの参加(2回以上) E学内の講師によるFDセミナーの開催(1回) ・大学院生へのアンケート実施(1回) カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議の開催(1回) ・大学院生参画FD会議において策定した提案について関係機関への回答依頼 EFD活動の整理と記録 ○達成目標 E大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員:95% E大学院生の満足度:「中」以上:75% | 1 | 13 |
| | 2 | 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 <人間社会学部><看護学部> ①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。 ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。 ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。 ○達成目標 ・臨床との共同研究数 :年に1件以上 ・教員・指導者講習会実施数 :年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数 :年に1人以上 ・他大学との合同FD開催数 :年に1回以上 | 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 <人間社会学部> ○他大学との合同研修会などの検討 ・社会福祉養成協議会九州ブロックの加盟校として、研究大会及び合同研修会等を検討・実施する。 ○ブラッシュアップのためのセミナーのH26年度開講(案)の検討 <看護学部> ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施 ・教員と臨床教授等の合同講習会 実施 ・実習に関する他大学との研修会、FD等の検討 ○達成目標 <看護学部> ・臨床との共同研究を実施 (1件以上/年) | 1 | 14 |

| 項目 | 中期計画 | | 平成25年度計画 | | 通し 番号 | |
|--|------|--|----------|--|----------|----|
| | 実施事項 | | ウエイト | | | |
| 5 優秀な学生の確保 本学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。 | 1 | <p>【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】</p> <p>①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定めた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直しながら実施する。</p> <p>○達成目標 ・志願倍率<各学科の志願倍率(一般入試)> (志願者数/募集人員) :公共社会学科 6.5倍以上 :社会福祉学科 6.0倍以上 :人間形成学科 7.5倍以上 :看護学科 5.5倍以上 ・辞退率<各学科> (辞退者数/合格者数(追加除く)) :両学部における辞退率 25%以下 ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む) 20回以上、 良好評価75%以上</p> | 1 | <p>【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】</p> <p><学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行う。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析を行う。 ・人間社会学部の改革に伴い、アドミッションポリシーの変更を検討する。 ・人間社会学部の改革に伴い、入試選抜方式の見直しを検討する。 ・今後の高大連携事業について、ニーズ調査や高校との意見交換を行う。</p> <p><大学院> ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保について改めて検討する。</p> <p>○大学院入試説明会の実施</p> <p>○達成目標 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) :公共(6.5倍)、社福(6.0倍)、形成(7.5倍)、看護(5.5倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)):25%以下 ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :20回以上、良好評価75%以上</p> | 1 | 15 |
| | 2 | <p>【積極的な広報活動】</p> <p>①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。 ⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。</p> <p>○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価 75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上</p> | 1 | <p>【積極的な広報活動】</p> <p>○広報活動等の改善の検討 ・ワーキンググループの報告に基づいて受験生等が求める入試説明会について、実施方法を再検討する。 ・受験生等の知りたい入試情報を提供すると視点に立ち、高校訪問の実施方法を再検討する。</p> <p>○広報活動等の実施・修正 ・大学紹介パンフレットの作成 ・入試説明会への参加と大学PRの実施 ・オープンキャンパスでのアンケート実施・評価 ・ホームページの入試ページの内容、情報アップロードの時期等を検討し、改善する ・大学祭等での来訪者へのパンフレット配布</p> <p>○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価 75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上</p> | 1 | 16 |

| 項目 | 中期計画 | | 平成25年度計画 | | 通し 番号 | |
|---|------|--|----------|---|----------|----|
| | | 実施事項 | | ウェイト | | |
| 6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。 | 1 | <p>【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。</p> <p>○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート : 良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート : 良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 : GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 : 表彰の実施(年1回)</p> | 1 | <p>【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>○学生のキャリア形成支援 ・キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化として、4人のカウンセラーと学生支援班で事例検討を実施する。 ・キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めるため、教員とセンターの情報の共有化を図り、学生一人ひとりに対応したきめ細かなキャリア形成支援を行う。</p> <p>○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みをH26年度実施に向け検討する。 ○1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなぐ。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定を、正規の授業として実施する。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間の経過について調査を行う。 ○優秀学生の表彰制度を実施し、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施する。</p> <p>○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート : 良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート : 良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 : GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 : 表彰の実施(年1回) ・キャリアサポートセンター利用数 : 利用者実数:250人以上、延べ1100件以上</p> | 2 | 17 |
| | 2 | <p>【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。</p> <p>○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 : 1回/年 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 : 対面会議 2回以上/年</p> | 1 | <p>【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ・学生コンソーシアムを支援する教員の体制づくり ・ケアリングSNSを活用した学生交流の促進</p> <p>○学生コンソーシアム会議の開催 ○学生フェスティバルの開催</p> <p>○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 : 1回/年、学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 : 対面会議年2回</p> | 1 | 18 |
| | 3 | <p>【大学院生支援の充実】</p> <p>①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。 具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えるとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学金減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用の検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。</p> <p>○達成目標 ・助成金の実施状況 : 3件以上/年 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 : 4件以上/年</p> | 1 | <p>【大学院生支援の充実】</p> <p>○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜地域教育支援専攻＞ ・社会人を含む院生の実態を踏まえ、相談体制を改善する。 ＜心理臨床専攻＞ ・H24年度実施したアンケート(実習に伴う交通費の支援、心理検査用具の充実、その他)の結果を踏まえ改善点を検討する。 ＜社会福祉専攻＞ ・現在、各担当教員は学生のニーズや希望する開講・相談時間について合わせられるように調整している。今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>＜看護学研究科＞ ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)について、学務部会やFD部会と連携し、体制を整える。</p> <p>○研究助成金制度の検討 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた検討 ○国内学会参加費補助金制度の検討</p> | 1 | 19 |

| 項目 | 中期計画 | | 平成25年度計画 | | 通し 番号 | |
|--|------|---|----------|--|----------|----|
| | 実施事項 | | | ウェイト | | |
| 7 学習環境の充実 学部生及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。 | 1 | 【IT教育システムの充実】 <人間社会学部><看護学部> 学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 :100以上(平成26年度以降) ・学生の利用率 :70%以上(平成26年度以降) | 1 | 【IT教育システムの充実】 <人間社会学部><看護学部> ○eラーニングシステムの教育効果を上げるための活用方法を検討 ・教員向け講習会の実施 ○eラーニングシステムの改善の検討 ○コース開設数調査の実施 数値目標 90コース開設 ○学生の利用率調査の実施 ・学生利用率の達成目標を前倒して設定 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 :90コース ・学生の利用率 :70%以上 | 1 | 20 |
| | 2 | 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 <人間社会学研究科><看護学研究科> ①社会人が学びやすい学習環境の充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備(システムの明文化とHPでのインフォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・アンケートによる満足度 :参加した社会人のアンケート調査における 良好評価 70%以上 | 1 | 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 <人間社会学研究科><看護学研究科> ○ホームページの大学院のトップページに「社会人が学びやすい学習環境の整備」の項目を追加し、平成24年度に決定した内容を掲載する。 ○博多サテライト教室の利用科目数の実態把握 ○博多サテライト教室での授業参加者(学生と本学の教員)を対象にした満足度調査 ○e-learningでのレポート提出とコメントのフィードバックの実施科目数の実態把握 ○図書館のデータベースの学外からの利用者数(アクセス数)の実態把握 ○達成目標 ・博多サテライト教室での授業参加者の全体満足度:普通以上70% | 1 | 21 |
| | 3 | 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニング commons の設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 :新規登録数年30件以上 ・ラーニング commons 利用者数 :月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 :月200名以上 | 1 | 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリ導入に向けての準備 ○ラーニング commons 設置(案)の作成 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜日開館の実施 ○達成目標 ・開館延長時間内の利用者数 :月200名以上 | 1 | 22 |
| 8 人間社会学部の改革 人間社会学部は平成4年の設置時に10年間を目標に大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生に魅力ある学部へと改革していくことが求められており、平成22年度には人間社会学部将来構想のワーキンググループによる構想案が作成され、その後、学長を委員長とする将来構想検討会議で構想案を作成した。この構想案を基盤に、人間社会学部の改革を実施していく。 | 1 | 【改革案の検討・作成】 ①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる。 ②労働市場や学生のニーズ等を調査する。 ③平成25年度までに改革案を検討・作成し中期計画の変更を行う。 ○達成目標 ・改革案の作成 :平成25年度までに作成 | 1 | 【改革案の検討・作成】 ○改革案を作成する。 ○達成目標 ・改革案の作成 :平成25年度中に作成 | 2 | 23 |
| 9 両学部連携の大学院博士課程の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的に第一線の研究を展開していく研究者を養成していくために、人間社会学研究科と看護学研究科が連携した博士課程について検討して新設する。 | 1 | 【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う。 | 1 | 【大学院博士課程の新設検討】 ・平成24年度に作成した設置構想案に基づき、関係者と協議の上、新設案を作成する。 ・博士課程担当可能な教員と授業科目を検討する。 | 1 | 24 |

○ウェイト付は、次の考え方をもとに行った。

①中期目標・中期計画に掲げられた項目ごとの目標 ②県評価委員会で指摘された工夫・改善、努力、期待項目の内容 ③自己評価において、中期計画項目で重点的に記述した内容

【ウェイト付けの理由】

・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。

・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>中期目標 2. 研究</p> | <p>「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。</p> |
|-----------------------|--|

| 中 期 計 画 | | 平 成 2 5 年 度 計 画 | | 通し 番号 |
|---|---|--|------|----------|
| 項 目 | 実 施 事 項 | | ウエイト | |
| <p>1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進</p> <p>特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。</p> | <p>1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】</p> <p>4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学術的共同研究の活性化 :シンポジウムの開催 隔年1回 ・産学連携契約件数 :年間2件(継続を含む) ・知的財産セミナーの開催 :年1回 ・メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行 :年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 :3名以上(口頭発表、ポスターセッション等) ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 :看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 :看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 :共同研究数 2件以上/年 :招聘件数 2件以上/年 ・提携協定校との共同研究の応募状況 :共同研究応募件数 3件以上/年</p> | <p>1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】</p> <p>4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを把握し、内容を調査・検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討し、他大学を調査する。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努める。 ○協定校(大邱韓医大、北京中医薬大学、三育大学、南京師範大学、コンケン大学)及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進するための学内分担や戦略について検討する。 ○日中韓等における保健・医療・福祉分野の学術的共同研究活性化のため、シンポジウムを開催する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 1回 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 3名以上 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 :看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 :看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件以上 :招聘件数 2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件以上 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :1回発刊 ・学術的共同研究シンポジウム開催 :1回</p> | 2 | 25 |
| | <p>2【外部研究資金の獲得の推進】</p> <p>①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。 ②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募/獲得による教員評価システムの検討と実施</p> <p>○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額 :年間30件以上、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 :80%以上 (現在科研費による研究課題を持っている教員は除く)</p> | <p>1【外部研究資金の獲得の推進】</p> <p>○科研費申請繁忙期に適宜事務局機能を強化する。また、ホームページの内容を充実していく。 ○科研費不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の具体的検討 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○未提出者から理由書の提出を求め、未提出理由を把握・分析すると共に応募の促進を図る。 ○達成目標 ・外部研究資金(科研費)獲得件数、金額 :年間30件、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 :80%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く)</p> | 1 | 26 |

| 中 期 計 画 | | 平 成 2 5 年 度 計 画 | | 通し 番号 |
|---------|--|---|------|----------|
| 項 目 | 実 施 事 項 | | ウエイト | |
| | <p>3【研究倫理の徹底】</p> <p>①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。</p> <p>○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回(平成25年度以降) ・動物実験に関する委員会(倫理審査を含む)：年2回以上</p> | <p>1【研究倫理の徹底】</p> <p>○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバーに対する研修会参加の推進 ・学外者を含めた審査体制の検討(学外者に入ってもらふ審査の基準を決定する)</p> <p>○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取り組みを検討</p> <p>○若手研究に対するセミナー開催での倫理指針の徹底 ・セミナーを開催する。</p> <p>○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)年2回以上</p> | 1 | 27 |

【ウエイト付の理由】

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

| | |
|-----------------|---|
| 中期目標 3. 社会貢献 | 「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。 |
|-----------------|---|

| 中 期 計 画 | | 平 成 2 5 年 度 計 画 | | 通し 番号 |
|---|--|---|------|----------|
| 項 目 | 実 施 事 項 | | ウエイト | |
| 1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。 | 1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。 ○達成目標 ・教員交流数 : 延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 : 1回以上/年 | 1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・北京中医药大学学生の短期文化・学術交流研修の受入 ・大邱韓医科大学、三育大学校、北京中医药大学、南京師範大学、コンケン大学との教員交流の推進 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・田川市郡との包括的連携事業として継続的に取り組める文化交流プログラム(案)をH26年度実施に向け開発する。 ○国際交流センター(仮称)のH26年度開設に向けた構想案の作成 ・国際交流部会を中心とした国際交流に関する業務の一元化体制整備の検討(規程策定、役割機能の明確化、等) ○達成目標 ・教員交流数 : 延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 : 1回以上/年 | 1 | 28 |
| | 2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の充実:短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援:派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会 : 年1回以上 ・受入留学生数 : 30人以上(私費留学生を含む)/年 | 1【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)の実施 期間:3週間のコースを設定 ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・短期語学研修に関する危機管理体制の構築 ○受入留学生の増加対策の実施 ・受入留学生のホストファミリー先確保の継続 ・受入留学生に対する更なる支援制度の整備 アンケート調査等で受入留学生支援体制の問題点を整理し体制の充実を図る。 ・受入留学生に対する日本語教育の充実 ○交流協定校への短期派遣留学生(長期休暇時1~2カ月派遣)の検討 ・奨学金制度の検討 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会:年1回以上 ・受入留学生 : 11名以上(私費留学生含む) | 1 | 29 |

| 中期計画 | | 平成25年度計画 | |
|---|---|----------|------|
| 項目 | 実施事項 | ウエイト | 通し番号 |
| 1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き | 3【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。 ○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳 :平成27年度までに作成 | 1 | 30 |
| 2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。 | 1【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ①福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ②田川市郡との包括連携事業の推進 ③県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年 | 1 | 31 |
| 3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。 | 1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進 ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート :良好評価75%以上 | 1 | 32 |
| | 1【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用の検討に当たっての所有者との協議 ・世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部が県立大学に所蔵されていることから、これらの保存・活用について所有者等保持者を交えた会議を開催して資料公開の検討を行う。 ○英文翻訳作業の検討・実施 ・田川市との協力の下、英文化する内容の特定等に着手する。 ○達成目標 ・地域の方々との日記現代語訳作業会議の開催 | | |
| | 1【全学体制による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ・連携協定に基づき、共同研究事業等の連携事業を実施し、点検する。 ○田川市郡との包括連携事業の推進 ・田川市郡1市6町1村と福岡県立大学との包括連携体制に向けて協議し、締結した内容を点検する。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 ・県立三大学連携推進会議で協議し、三大学連携県民公開講座を実施する。 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の推進 :2件以上/年(継続含む) ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 :1企画以上/年 | | |
| | 1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 (生涯福祉研究センター) ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ・お父さんお母さんの学習室の運営 ・「足と靴の相談室」の運営他2事業の実施 ○地域活動の強化 ・福祉の実践に関するセミナー他3事業の実施 ・ボランティア養成ワークショップ継続の是非について検討 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催(隔月1回:6回以上) ・参加者・相談者アンケート :良好評価75%以上 | | |

| 中期計画 | | 平成25年度計画 | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|----------|---|---|----|
| 項目 | 実施事項 | ウエイト | 通し番号 | | |
| ※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き | ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き | 2 | <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 <ヘルスプロモーション実践研究センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康教室の実施・修正 ○地域活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・癒しの空間およびヒーリング講習会継続実施 毎週水曜日実施 年間300名 ・世にも珍しいマザークラスinたがわ 年間 6回 ○支援的環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と共に創造する筑豊の健康長寿文化 :高齢者宅訪問:年間 30件 ○個人技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ババママは名医だぞ 年間 3回 ・保育看護学習会(保育士対象) 年間 6回 ・世にも珍しいマザークラスinふくおか 年間 6回 ○健康大使制度の運用 継続実施 <p>②福祉・教育・健康の相談事業の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」 年間 4日 ○性の健康に関する事業(布ナプキン作成、マンスリーボックス、月経何でも相談、性教育) ○多職種協働がんセミナー 2ヶ所 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教室等: 20件 ・参加者数: 延べ 800名 ・参加者アンケート: 良好評価 75%以上 | 1 | 33 |
| | | 3 | <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 <不登校・ひきこもりサポートセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○キャンパス・スクール事業の実施 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター派遣人数: 140名以上 ・教員対象研修回数 : 10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数: 20名以上 ・登校開始率: 37% <p>※ 登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。</p> | 1 | 34 |
| | | 4 | <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 <社会貢献・ボランティア支援センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の社会貢献・ボランティア活動を求める外部団体の情報を学生に提供する。 ・社会貢献・ボランティア活動を希望する学生の相談に応じ、学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートを行う。 ○ 社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学内のボランティアサークルとの懇談会を開催する。 ・学生グループの活動の場(研修、会議、作業等)を提供する。 ・学生サークルの課題を把握し、自らが解決できるように支援する。 ○ 地域と連携した学生活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街や地域の活性化、小・中学校の学習支援、防災等の課題に地域と連携して取り組む学生活動に対して地域の関係団体 との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援を行う。 ○ 学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を企画・実施する。 ・学生提案による研修会の実施を支援する。 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部団体・機関登録数 90件以上 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 300人(延) ・社会貢献フォーラムの開催 年1回 | 1 | 35 |

| 中期計画 | | 平成25年度計画 | |
|--------------------------------|-----------------------------|----------|------|
| 項目 | 実施事項 | ウエイト | 通し番号 |
| ※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き | 2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 | 1 | 36 |
| | 3【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 | 1 | 37 |
| | 4【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 | 1 | 38 |
| | 1【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 | 1 | |

| | |
|-----------------|--|
| 中期目標 4. 業務運営 | 「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。 多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。 |
|-----------------|--|

| 中 期 計 画 | | 平 成 2 5 年 度 計 画 | | 通し 番号 |
|--|--|---|------|----------|
| 項 目 | 実 施 事 項 | | ウエイト | |
| 1 運営体制の改善 理事長のリーダーシップのもと、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備するとともに、多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた職員の人材確保・育成など、大学運営の基盤強化を図る。 | 1【事務局機能の強化】 ①大学に特有な業務の機能を強化するため、段階的にプロパー職員の採用を進める。 ②徹底的な事務処理の見直し、業務マニュアルの作成、情報の共有化により、事務作業の簡略化を検討する。 ③事務職員の資質の向上と教育現場に関わる者として意識の向上を図るため、SDのシステム化を推進する。 ④研究や活動内容等をデータベース化し、蓄積した情報を有効活用する。 ⑤防災・防犯対策や学生の事故防止のため安全管理体制の充実を図る。 ⑥より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討・実施する。 ○達成目標 ・プロパー職員の採用 :平成27年度まで8名以上 | 1【事務局機能の強化】 ○事務局機能強化に向けた専門性を要する部署へのプロパー職員の登用 ○異動に伴う引継等における各部署における業務マニュアルの統一的な様式での作成及び冊子化の検討 ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修及び学内SD研修の実施 ○事務局情報のデータベースを踏まえ、事務局ファイル共有システムの的確な運用開始 ○より一層の安全管理体制の充実を図るため、防火訓練の充実 ○県立三大学の事務処理において、経費削減効果が見込める事務処理として「庶務システム」の導入可否の検討 ○達成目標 ・プロパー職員の採用 :平成26年度2名採用 | 1 | 39 |
| | 2【教員の志気を高める教育環境の整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設 ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ③担当科目数の平準化 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) :毎年度の表彰 ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30% | 1【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰制度委員会を設置し、Best Teacher's Awardを含む表彰制度を作る。 ・教員表彰規則を定め、教員表彰を実施する。 ○改善した研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%枠確保する。 ○常勤教員の授業担当科目数の実態調査に基づき、担当科目平準化の実施案の作成と一部を実施する。 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Award含む) ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30% | 1 | 40 |
| | 3【教員の個人業績評価システムの改善】 ①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。 | 1【教員の個人業績評価システムの改善】 ○教員個人業績評価基準の見直し・検討を行う。 ・個人業績評価基準の見直しに関する委員会の開催 ・評価基準見直し案の策定 ・教員に対するヒアリングの実施 | 1 | 41 |
| | 4【リスクマネジメント体制の整備】 ①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。 | 1【リスクマネジメント体制の整備】 ○調査した他の公立大学のリスクマネジメント体制を基に基本指針を検討 ○洗い出したリスク別の対応方法 | 1 | 42 |

| | |
|---------------|---|
| 中期目標 5. 財務 | 「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。 |
|---------------|---|

| 中 期 計 画 | | 平 成 2 5 年 度 計 画 | | 通し 番号 |
|---|--|--|--|----------|
| 項 目 | 実 施 事 項 | | ウエイト | |
| 1 自己収入の積極的確保 外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。 | 1【外部研究資金等の積極的確保】 ①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。 ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得額：年間5,000万円以上 | 1【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期の事務局機能支援の強化 ○ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の検討 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の具体的検討等 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○科研費未申請者からの理由調査の実施と分析 ○民間企業や同窓会組織に対して、寄附金を増加させるための広報活動を行う。 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額：年間5,000万円以上 ・科学研究費応募率：70%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く) 80%以上(上記に正当と認められる理由のある教員をさらに除く) | 2 | 43 |
| | 2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。 | 1【業務改善による経費の削減】 ①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定 | 1【業務改善による経費の削減】 ○物品購入等の発注方法の見直しにより、消耗品の集中発注システムの活用 ○アウトソーシング可能な業務の検討 ○初期投資を要さない省エネ対策(節電対策)の推進 ○達成目標 ・業務改善件数 1件以上/年 | 1 |
| | 2【人件費の抑制】 ①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定 | 1【人件費の抑制】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用 ○人件費の硬直化を回避するため、非常勤等職員の有期雇用の徹底を図る(労働契約法改正への対応)。 ○達成目標 ・平成25年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること(H25年度新規事業分を除く) | 1 | 45 |

【ウエイト付の理由】
 ・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>中期目標 6. 評価及び情報公開</p> | <p>「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」 (1) 評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。 (2) 情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。</p> |
|-----------------------------|--|

| 中 期 計 画 | | 平 成 2 5 年 度 計 画 | | 通し 番号 |
|---|--|---|------|----------|
| 項 目 | 実 施 事 項 | | ウエイト | |
| <p>1 自己点検・評価の効率的な実施 自己点検・評価及び各種評価結果を大学運営に反映し、改善を図る。</p> | <p>1 【自己点検・評価の見直しと実施】 ①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。 ②各教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を実施し、教育・研究・社会貢献一覧を作成し、HPに掲載する。 ③次期認証評価に向けて、必要なデータを蓄積する仕組みを検討し、認証評価の準備を行う。</p> | <p>1 【自己点検・評価の見直しと実施】 ○県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる具体的提案を行う。 ○教員の教育・研究・社会貢献一覧を作成し、HPに掲載する。 ○認証評価に必要なデータを蓄積する仕組みとして「福岡県立大学企画・評価委員会」を設置する。</p> | 1 | 46 |
| <p>2 広報活動の充実・強化 本学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開し、県大ブランド力を高める。</p> | <p>2 【県大ブランド力の強化】 効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通じた広報活動の充実 ④情報発信体制の整備 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年</p> | <p>1 【県大ブランド力の強化】 ○HPの掲載情報における更新について、定期的に「チェック分担者リスト」によるチェック ○HPの全面的リニューアルに向け、トップページに掲載しているフラッシュやリリースニュースの見直しを検討 ○教育プログラムにおける特色ある取組について、HPの教育情報の中の任意情報の充実 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ・「大学案内」及び「大学広報」などの広報パンフレットの刊行 ・高校への出前講義によるPR活動 ・福岡県広報の積極的活用 ○情報発信体制の整備 ・大学発のフォーラム・シンポジウムの積極的な記者資料提供 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年</p> | 1 | 47 |

平成25年度収支計画予算

(単位:百万円)

| 区分 | 金額 |
|-------------|-------|
| 費用の部 | 1,992 |
| 業務費 | 1,736 |
| 教育研究経費 | 299 |
| 受託研究等 | 43 |
| 人件費 | 1,393 |
| 一般管理費 | 256 |
| (減価償却費 再掲) | 72 |
| 収益の部 | 1,992 |
| 運営費交付金収益 | 1,086 |
| 授業料収益 | 579 |
| 入学金収益 | 121 |
| 検定料収益 | 26 |
| 受託研究等収益 | - |
| 寄附金収益 | 0 |
| 補助金等収益 | 43 |
| 財務収益 | 0 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 49 |
| 資産見返補助金戻入 | 11 |
| 資産見返運営費交付金等 | 11 |
| 戻入 | |
| 雑益 | 38 |
| 目的積立金取崩額 | 23 |

平成25年度資金計画予算

(単位:百万円)

| 区分 | 金額 |
|-------------|-------|
| 資金支出 | 2,177 |
| 業務活動による支出 | 1,882 |
| 投資活動による支出 | 37 |
| 財務活動による支出 | - |
| 翌年度への繰越金 | 258 |
| 資金収入 | 2,177 |
| 業務活動による収入 | 1,895 |
| 運営費交付金による収入 | 1,086 |
| 授業料等による収入 | 727 |
| 補助金による収入 | 43 |
| 受託研究等による収入 | 0 |
| その他収入 | 37 |
| 投資活動による収入 | 0 |
| 財務活動による収入 | - |
| 目的積立金取崩額 | 23 |
| 前年度からの繰越金 | 258 |